

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成21年度農作物病害虫発生予察情報について

平成21年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

平成21年度農作物病害虫発生予報第8号

平成21年10月1日
徳島県

.普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない。
- (2) 予察灯への誘殺は、少発生で推移している。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特に西部地域において、10月中旬以降に収穫を迎える作型については、液剤等により防除を行なう。

.果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(無防除区、9月18日調査)における発生量は、寄生葉率が5.0%、1葉当たり生息数が0.08頭であり、ほぼ平年(7.3%、0.10頭)並の発生である。
- (2) 9月後半の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率は100%であり、平年(54.9%)と比べて高かったものの、寄生葉率は3.0%であり、平年(13.6%)と比べて低い。
- (3) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、発病葉率が 3.6%であり、ほぼ平年(52.3%, 9.5%)並の発生である。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い圃場では薬剤散布を行ない、早期落葉を防止する。

炭そ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が 9.6%、発病果率が 0.2%)。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

果樹共通

カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 予察灯への誘殺虫数は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年並～やや少なめで推移している。

[予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
9.1	26	93	5	46	56	4	15	4	6	6
9.2	6	84	9	54	51	3	8	6	8	7
9.3	8	178	15	11	49	2	18	7	16	8
9.4	8	333	52	44	102	12	35	11	18	17
9.5		391	26	12	129	41	60	6	17	16
9.6		144	4	18	80	7	24	1	26	16

[予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝 浦 町					上 板 町				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年	2009年	2008年	2007年	2006年	平 年
9.1	61	156	21	298	121	6	22	3	16	11
9.2	24	84	16	323	138	0	19	1	23	11
9.3	9	144	26	73	91	0	21	7	6	8
9.4	5	334	39	345	152	2	32	10	18	10
9.5		138	10	45	51	1	32	0	7	5
9.6		9	0	48	59	0	2	1	7	2

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹圃場周辺の雑木林から成虫が飛来するので、圃場を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(2) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が77.8%、発病葉率が15.6%であり、ほぼ平年(73.2%, 19.5%)並の発生である。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料の過用を避ける。

(2) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣ってくるので、薬剤散布は展着剤を加用し、早めに行なう。

(3) 落葉した罹病葉は適切に処分する。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率は77.8%で、平年(45.6%)と比べてやや高いが、寄生葉率は4.3%、被害果率は0.7%であり、ほぼ平年(3.1%, 0.7%)並の発生である。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、寄生新梢率が2.1%であり、平年(11.1%, 0.3%)と比べてやや多めの発生である。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、寄生葉率が7.4%であり、平年(31.1%, 4.3%)と比べてやや多めの発生である。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、

- 防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
(2)同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年並～やや多く(前年並),発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が50.0%、寄生株率が 5.2%であり、平年(22.5%, 2.2%)と比べてやや多めの発生である。
 - (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

- 1) 予報内容
発生量 平年並～やや多く(前年並),発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率は41.7%で平年(10.4%)と比べてやや高いが、10株当たり寄生幼虫数は 0.3頭でほぼ平年(0.1頭)並の発生である。
 - (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

モンシロチョウ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が16.7%、10株当たり寄生幼虫数が 0.3頭であり、ほぼ平年(10.8%, 0.3頭)並の発生である。
 - (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 1.0%、発病株率が 0.02%)。
 - (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。
 - (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が60.0%、50株あたり寄生虫数が7.4頭であり、平年(41.5%、3.3頭)と比べてやや多めの発生である。一部に激発圃場も見受けられる。
- (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
- (2) ヨトウコン-Sによる交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、葉の被害度が0.1であり、平年(14.3%、0.4)並の発生である。
- (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ (10月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「甚」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が31.8であり、平年(86.3%、24.8)と比べてやや発生が多い。
- (2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が33.3%、

寄生株率が 6.7%であり、ほぼ平年(47.3%, 8.0%)並の発生である。

(2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、平年並～やや少なめで推移している。

(3) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1)予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「中」

2)予報の根拠

(1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、平年並～やや多めで推移している。

(2) 9月25日発表の1ヶ月予報では、気温は高い確率が50%、降水量、日照時間は平年並の確率が40%とされており、やや発生助長的気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫時に防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2009年	2008年	2007年	2006年	平年	2009年	2008年	2007年	2006年	平年
9.1	199	421	187	708	417	27	122	40	27	68
9.2	277	484	445	527	430	62	210	48	53	94
9.3	340	379	492	502	496	221	151	72	29	92
9.4	216	342	355	398	491	91	82	68	21	64
9.5		456	418	586	534		139	100	19	80
9.6		448	716	424	560		188	108	12	82

調査圃場：徳島市(川内,不動),阿波市(柿島,香美),吉野川市(鴨島町)石井町,東みよし町加茂

.その他

1.ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期です。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生が確認されたら速やかに防除してください。

2.薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守してください。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所
テレホンサービス：0 8 8 3 (2 6) 1 1 9 9
U R L : <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。